



創立70周年の東京交響楽団で活躍する楽団員

(後編)

ミュゼ川崎シンフォニーホールをホームグラウンドに活躍している、川崎市のフランチャイズオーケストラ・東京交響楽団は今年、創立70周年を迎えました。楽団で活躍している5人の外国出身の楽団員インタビュー・後編です。

ミュゼ川崎シンフォニーホールについて、また、川崎市の街や人々、文化などの感想や印象を聞かせてください。

ニキティン:ミュゼはいいホールですね。災害の修復後、さらに音が良くなりました。演奏者とお客様双方にとっても音が聴きやすく、やさしい雰囲気のホテルです。

大和田:素晴らしいホールです。私の家からはちょっと遠いですが(笑)。海外のオーケストラのメンバーも、ミュゼで演奏すると喜びます。川崎駅の東西で雰囲気が違って、それがまた面白いですね。

黄原:川崎の街は活気があって、ミュゼ周辺はいつも賑わっていますね。駅とミュゼがデッキでつながっているのは、演奏会に行く高揚感や雰囲気がそのまま続くので環境として素晴らしいと思います。

ミュゼは約2,000人収容のホールなのにお客様があまり遠くにいるようには感じません。特に1階の前方に座っているお客様は顔がおひとりずつ見えて、親近感があります。また、ホール内装の色やデザインが「粋」ですね。コンサートの一体感を生み出していると思います。

ヌヴェー:ミュゼ川崎は美しく、音の響きが素晴らしいホールですね。それに川崎の街は賑やかで楽しいです。私はミュゼのすぐそばに住んでいて、ラゾーナには毎日のように行きますよ。

ハミル:ミュゼは大好きです。ベルリンフィルのメンバーが来日公演した時には、ホールを称賛して「毎日こんな素晴らしいホールで演奏できるなんて、あなた方はラッキーだなあ」と言っていました。ミュゼは客席が近いので、お客様の笑顔が見えるのがすばらしい。

川崎市については工業都市だと聞いていましたが、実際に来てみたら空も街もきれいなのに驚きました。駅前にこんなゴージャスなホールがあるし(笑)、ラゾーナも楽しい。また、市全体に音楽文

化を盛り上げる雰囲気を感じます。私たちは、昭和音大やアゼリアでもコンサートを行っています。まさに「音楽のまち・かわさき」だなと思います。これほど盛んに音楽イベントに取り組む街はほかにあるかなあ。ないよね？

全員:そうそう。(同意してうなづく)

貴重なフリータイムは、どのようにお過ごしですか？

ハミル:ホルン・セクションの仲間と食べ歩きをしたりします。美味しいもの好きですね。グルメ？だからお腹が少し出ています(笑)。家で何もせずにゆったり過ごすことも好きですよ。

ヌヴェー:時間があるときは、家で料理を作ったり、子どもと遊んだりします。

黄原:私は料理を作ったり、家族との時間を楽しまします。でも、家でも次の演奏会の準備や練習をしています(ニキティンさん称賛の拍手)。演奏家は、演奏会やリハーサルがないときも、個人の練習や

プライベートコンサートなどがあるので、実際は音楽から完全に離れてゆったりするときはありません。ただ、休みが取れたら友だちと旅行に行くこともあります。

大和田:私も休みの日も練習をします。特に知らない曲の演奏会があるときは時間をかけます(ニキティンさん再び拍手)。時間があるときには、サイクリングやスイミングをしたり、山が好きなので長野の方に行ったりします。

ニキティン:コンサートマスターは責任が重いので、演奏の準備や練習にオーケストラでの練習やリハーサルの倍くらい時間をかけます。スポーツクラブに行くなどして体調管理もしています。息子が5才なんですけど、ロシア語と英語などの勉強をみることもありますよ。

5人の皆さんのユーモアと、個性にあふれた話が弾んで、笑いあり、拍手ありという楽しい取材でした。今秋は創立70周年記念のヨーロッパ公演をされたそうです。皆さんの今後のご活躍にも注目です。

(取材・文:編集ボランティア 小島 俊彦)

東京交響楽団公式 HP:<http://tokyosymphony.jp/>



こうはらりょうじ
黄原亮司
(中国出身)
1991年入団
チェロ奏者

グレブ・ニキティン
(ロシア出身)
2000年入団
コンサートマスター

ジョナサン・ハミル
(アメリカ出身)
2001年入団
首席ホルン奏者

大和田 ルース
(イギリス出身)
1988年入団
第1ヴァイオリン奏者

エマニュエル・ヌヴェー
(フランス出身)
2002年入団
首席クラリネット奏者